

平成30年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名	福岡県教育委員会
モデル校名称	筑後市立筑後中学校
対象学年及び人数	全学年、417人
栄養教諭等の配置	平成23年度から栄養教諭が一人配置

1 取組テーマ

自ら健全な食生活を実践し、食の自立を目指す生徒の育成
～みんなでつなげる「ちっご食育プログラム」～

2 推進委員会の構成

委員長	沖田 千代	福岡女子大学 名誉教授
副委員長	中村 英司	筑後市教育委員会教育長
委員	太田 雅規	福岡女子大学 教授
委員	安倍 ちか	九州栄養福祉大学 准教授
委員	梅木 陽子	福岡女子大学 講師
委員	寺崎 雅巳	福岡県教育庁教育振興部副理事兼体育スポーツ健康課長
委員	今古賀 亜希	福岡県教育庁南筑後教育事務所 指導主事
委員	坂本 啓悟	筑後市教育委員会学校教育課長
委員	田中 庸二	筑後市教育委員会主任教育指導主事
委員	古賀 蔵	筑後市立筑後中学校長
委員	清原 明美	筑後市立筑後中学校主幹教諭
委員	江良 礼二	筑後市立筑後中学校教諭
委員	丸山 優子	筑後市立筑後中学校栄養教諭
委員	田中 彰弘	筑後市立筑後中学校PTA会長
委員	神田 悠司	大塚製薬株式会社福岡支店

3 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
福岡女子大学	食育プログラムに関する指導・助言、アンケート等の
九州栄養福祉大学	調査結果の評価・分析
地域の食育に携わる関係機関・団体 (筑後市、筑後市教育委員会、筑後市 PTA、地域コミュニティ、JA、生 産者団体等)	ゲストティーチャーとしての食に関する指導への参画 食に関する体験活動への協力 食に関する各種イベントへの協力 啓発プログラムへの協力

4 取組前のモデル校の状況

(1) これまでの食育の取組状況

- ・「自分でつくる弁当の日」（年1回 全学年）
- ・夏季休暇中の食事作りの家庭実践（1年弁当づくり、2年学校給食レシコンクール）
- ・教科担任と栄養教諭とのT.Tによる教科学習、学級活動
- ・地場産物を活用した給食を提供する「ちっごの日」の実施
- ・PTA給食試食会
- ・市PTA連合会 夏休み期間の「早寝・早起き・朝ごはん」運動

(2) 学校の課題

- ・朝食を毎日食べる生徒の割合が75.9%（H29全国学力・学習状況調査より）であり、県平均、全国平均を下回っている。
- ・「自分でつくる弁当の日」の取組に個人差があるため、教職員全員が共通理解をもち学校全体で取り組むこと、保護者に取組の意義についての理解を促し、巻き込んでいく方策が必要である。
- ・給食の時間等における食事のマナーが身に付いていないため、学級活動や給食の時間における食事マナーについての指導と家庭への啓発を図り家庭実践を促す取組が必要である。

5 評価指標の設定について

(1) 共通指標について

- ① 児童生徒、保護者の食育に関する意識に関すること
 - ア 朝食を食べることへの価値
 - イ 共食をすることへの価値
 - ウ 栄養バランスを考えた食事をとることへの価値
 - エ 食事マナーを身に付けることへの価値
 - オ 伝統的な食文化や行事食を学ぶことへの価値
 - カ 衛生管理の重要性について学ぶことへの価値
 - ② 朝食を欠食する児童生徒の割合
 - ③ 児童生徒の共食の回数
 - ④ 栄養バランスを考えた食事をとっている児童生徒の割合
- ※ 共通指標は、児童生徒アンケートによって測定する。

(2) 独自指標について

- ⑤ 「給食が好き」な生徒の割合
 - ⑥ 自分で料理をする頻度の割合
 - ⑦ 食品選択における着目点
- ※ 独自指標は、生徒アンケートによって測定する。

6 実践内容（評価指標を向上させるための仮説（筋道）を含めて）

学校を中心とし、関係機関、団体等が連携した家庭を巻き込んだ「ちっご食育プログラム」を実施し、評価指標の向上を目指す。

「ちっご食育プログラム」は、

- I 【生徒の食生活（生活習慣）への意識を高める働きかけ】
- II 【生徒の食生活に関する知識・技能を高める働きかけ】
- III 【生徒自らが食生活をつくる働きかけ】

IV 【生徒の望ましい食生活を支える働きかけ】

の4つの「働きかけ」を生徒及び保護者等に行い、生徒の自立を促すものである。

I 生徒の食生活（生活習慣）への意識を高める働きかけ

① 学級活動を中心とした食生活への意識を高める食に関する指導

◇プログラムの概要

- ・ 生徒が、自分の朝食摂取の現状を振り返ることができるアンケートを実施した。
- ・ 朝食摂取率向上をめざし、チャレンジ朝ごはん給食（生徒自身が家庭で調理できそうなメニュー）を給食献立に取り入れた。
- ・ アンケート結果やチャレンジ朝ごはん給食のメニュー（レシピ含む）をもとに、自分の朝食摂取について考える学級会活動を行った。
- ・ 活動後のふり返りとして、「がんばりカード」を配布し、家庭での自分の朝食摂取について振り返る活動を設定した。

◇保護者への働きかけ

- ・ 保護者への公開・参加型の授業を実施した。
- ・ 生徒と保護者の朝食に対する意識付けを行うために、朝食記録表を配布した。

② 生徒会活動の取組（生徒による食生活改善プロジェクト）

◇プログラムの概要

- ・ 生徒会（給食委員会）による食生活アンケート→調査結果の分析→原因の分析→全校または各学級の取組→取組のまとめ（生徒、保護者に向けて発信）といった生徒主体の一連の取組をとおして、食生活に対する課題に気付かせ、自ら改善していこうとする意識を高めた。

◇保護者への働きかけ

- ・ 文化発表会において、生徒から保護者へ取組を発信した。
- ・ 生徒会の取り組みを掲載した給食だよりを発行し、保護者に周知した。



【文化発表会の様子で発表する生徒（上）】

【発表会で紹介した弁当に関する発表資料（下）】

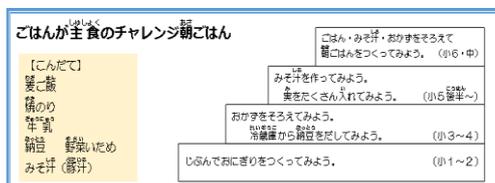
③ 学校給食を活用した栄養教諭と学級担任が連携した給食の時間における食に関する指導

◇プログラムの概要

- ・ 給食の時間における食に関する指導の意義やねらいについて共通を図り、栄養教諭と学級担任で連携を図り計画的な指導を行った。
- ・ 生徒が考案した給食メニューを実際に調理し提供した。
- ・ 朝食モデル献立を給食時間に提供した。

◇保護者への働きかけ

- ・ 保護者対象の給食参観、試食会を実施した。



【朝食モデル献立（上）と、給食だよりの紹介資料（下）】

- ・ 毎月給食だよりを発行し、学校の取組を保護者に周知した。

II 生徒の食生活に関する知識・技能を高める働きかけ

④ 技術・家庭科（家庭分野）を中心とした教科等における食に関する指導

◇プログラムの概要

- ・ 教科等における望ましい食生活の実践に向け、食に関する関心や知識、調理等に関する技能を高め、さらに学習したことを実生活へとつなげた。
- ・ 小・中連携による9ヶ年を見通した指導計画の充実に図った。

◇保護者への働きかけ

- ・ 生徒が作成した学習の成果物を家庭に発信した。
- ・ 長期休業中に家庭実践へつなげるため、課題を設定した。



【提出された課題をまとめた掲示物】

⑤ 生徒や保護者の実態やニーズに応じた食に関する特設講座の実施

◇プログラムの概要

- ・ 朝食摂取率向上をめざした、中学生対象の料理教室を実施した。
- ・ 食の自立に向けた視点から保護者対象の講演会を実施した。

◇保護者への働きかけ

- ・ 生徒と保護者が一緒に食について考える「筑後中つながるレシピ」の募集
- ・ 取り組みを掲載した給食だよりを発行し、保護者に周知した。



【完成したつながるレシピ集】

III 生徒自らが食生活をつくる働きかけ

⑥ 「食の作り手」の立場を体験する実生活における調理活動の促進

◇プログラムの概要

- ・ 生徒自身が自らの食事や家族の食事を作る機会として、以下の取組を行い、食に関する関心高め、食に関する自己管理能力を育成した。
 - 自分の力で弁当を作り、学校で会食をする「弁当の日」の取組
 - 自分や家族の朝ごはんをつくる「朝食の日」の取組
 - 地場産物を活用した学校給食献立を考えて作る「福岡県学校給食レシピコンクール」の取組
 - 筑後中学校校区の小学校5年生を対象としたサラダコンクールの取組

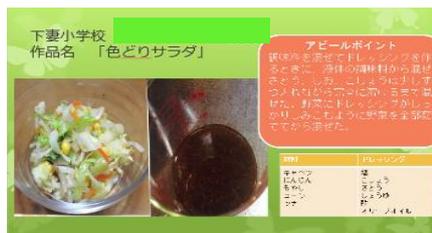


【「朝食の日」につながる調理実習】

- ・ 学校と家庭で連携して取組を行い、保護者の食に対する意識を高め、家庭における食育を促進した。

◇保護者への働きかけ

- ・ 活動のねらい、目標についての学校と家庭の共通理解を図った。
- ・ 家庭での生徒への関わり方について学校と家庭の共通理解を図った。
- ・ 生徒の取組の様子や成長についての共通理解を図った。
- ・ 保護者から弁当レシピを募集し、「簡単朝食レシピ集」、「弁当献立レシピ集」を作成・各家庭に配布した。
- ・ 家庭配布用献立表に、生徒が作ることができそうな料理に印をつけ、配布した。



【小学生の募集作品（上）】
【実際の給食献立に採用された様子（下）】

IV 生徒の望ましい食生活を支える働きかけ

⑦ 地元料理人による地場産物を使った料理教室の実施

◇プログラムの概要

- ・ 生徒と保護者が地元料理人から地場産物を活用した朝食作りを学び、食事を作る楽しさや地場産物についての関心を高めた。

◇保護者への働きかけ

- ・ 料理教室の様子を給食だよりに掲載し、啓発した。



【地域の野菜ソムリエによる料理教室】

⑧ 食をテーマとした保護者対象の講習会

◇プログラムの概要

- ・ 「孤食」、「朝食欠食」等、生徒を取り巻く食に関する環境をテーマとした講習会を開催し、保護者の食に対する意識を高めた。

◇保護者への働きかけ

- ・ 参加する保護者の拡大のために、学校行事や市のイベントの一環として開催した。

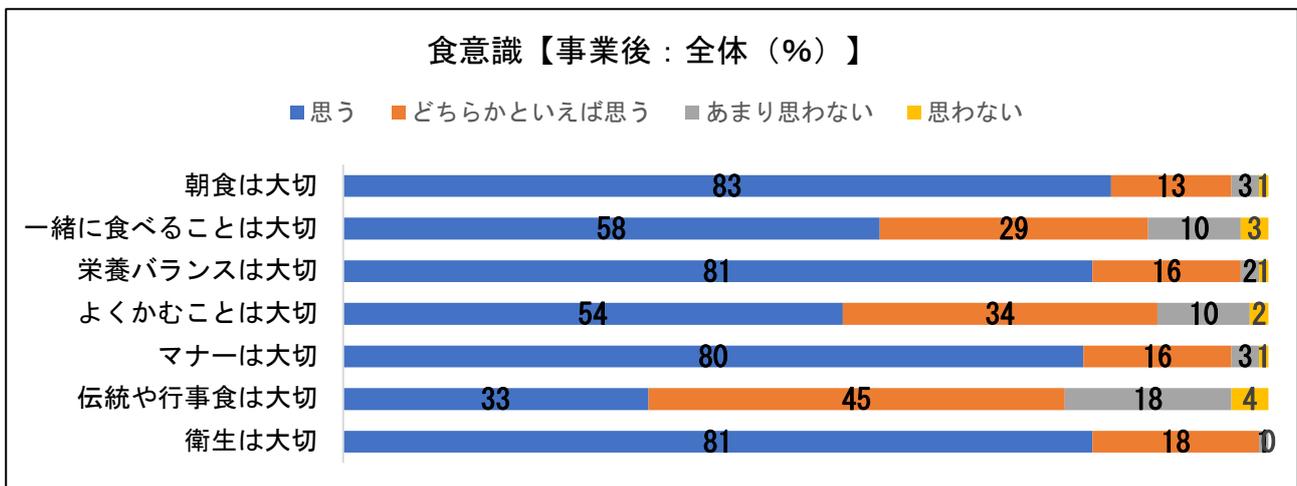
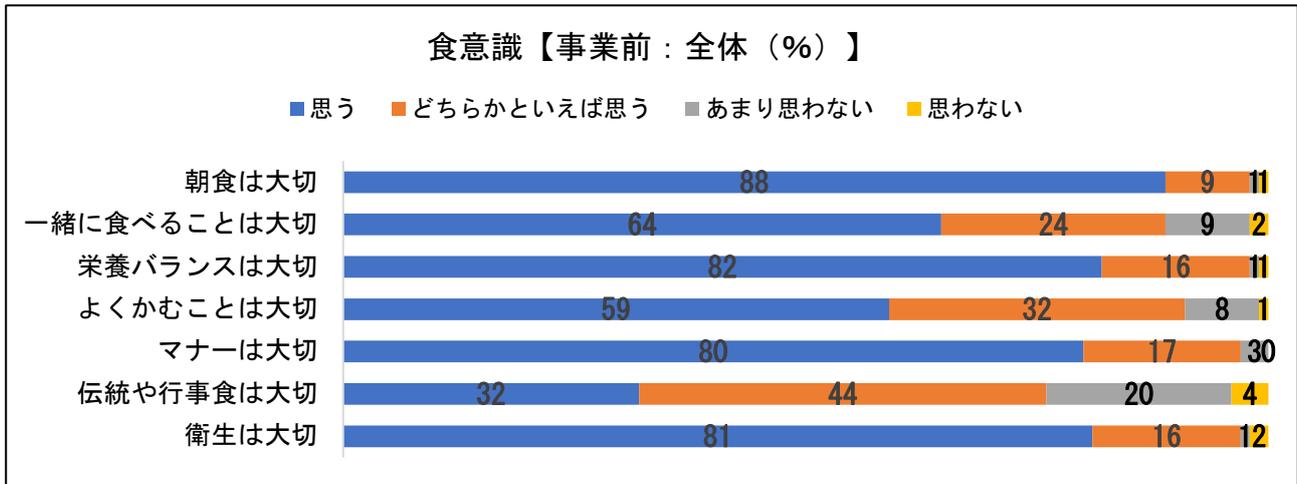


【保護者対象の食育講演会】

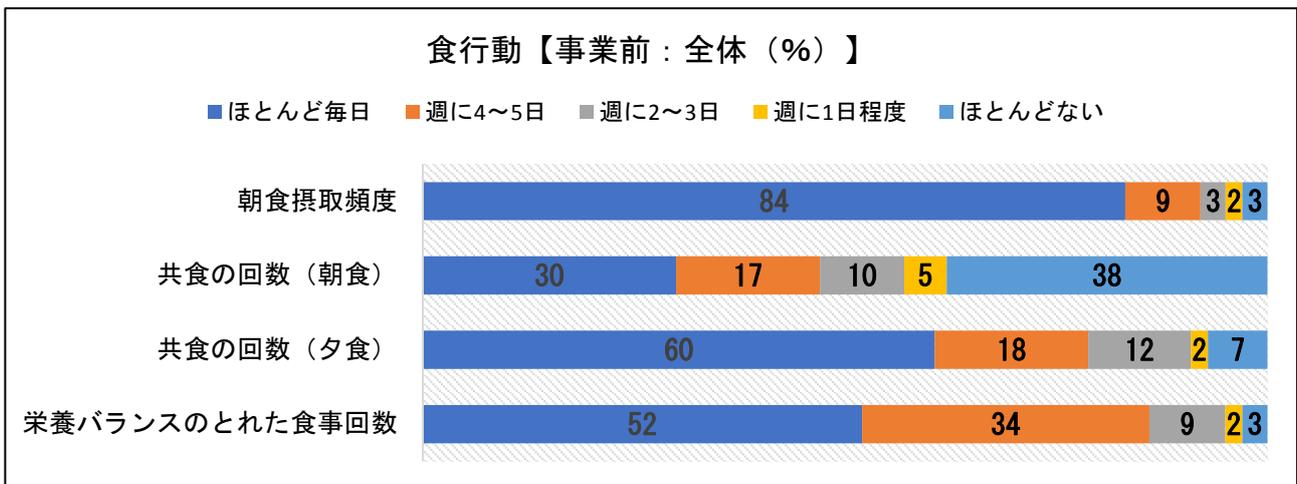
7 評価指標の測定結果

(1) 共通指標について

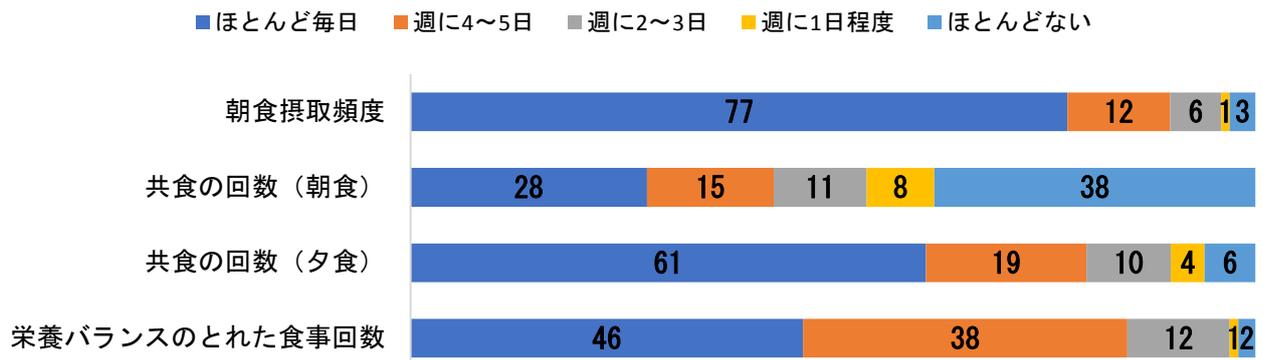
【食意識について：生徒アンケートから】



【食行動について：生徒アンケートから】

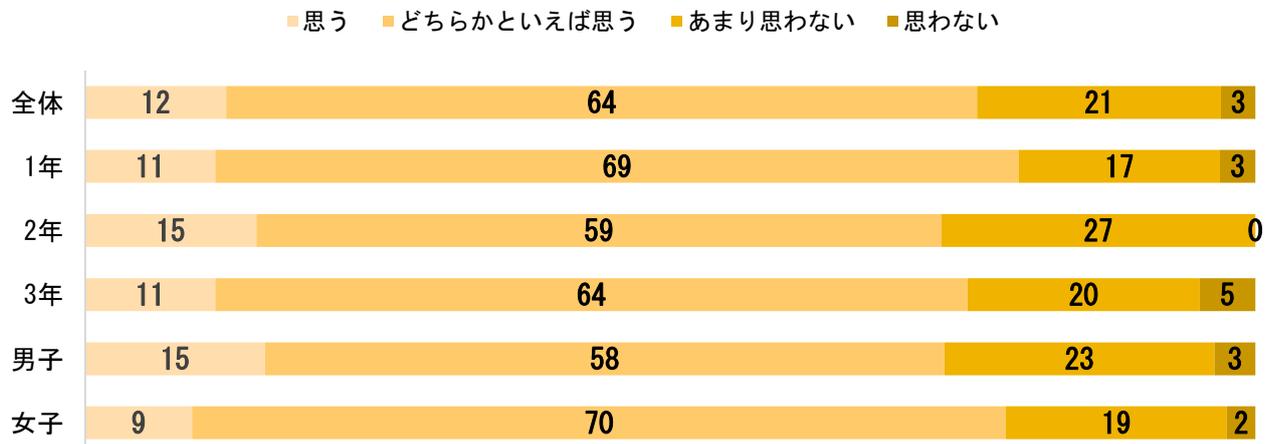


食行動【事業後：全体（％）】

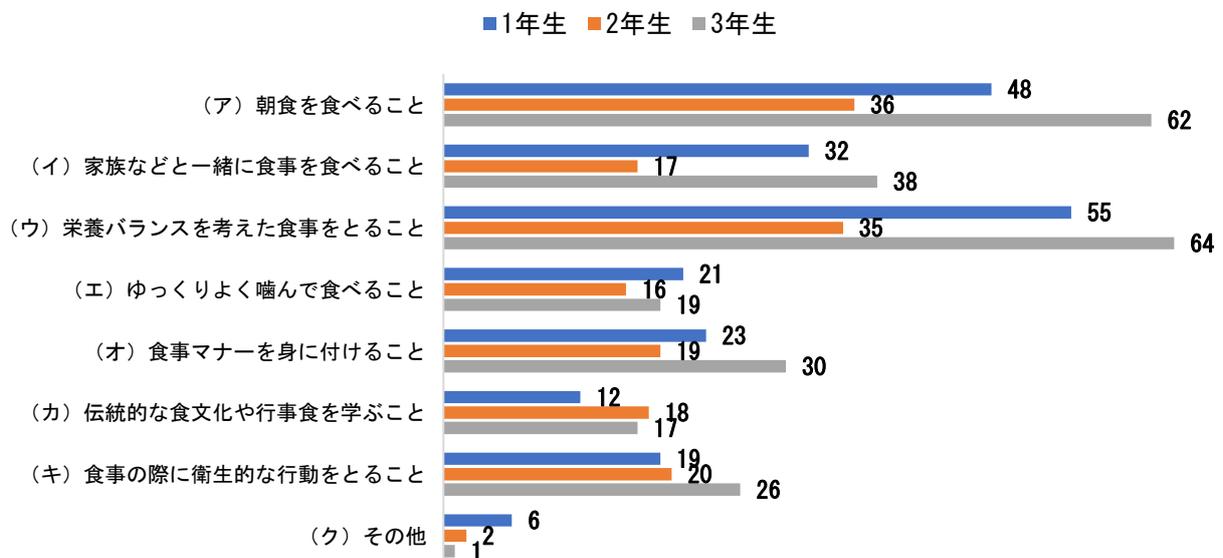


【食に対する意識の高まりについて：保護者アンケートから】

食育による生徒の食に関する意識の高まり【事業後：保護者の視点（％）】

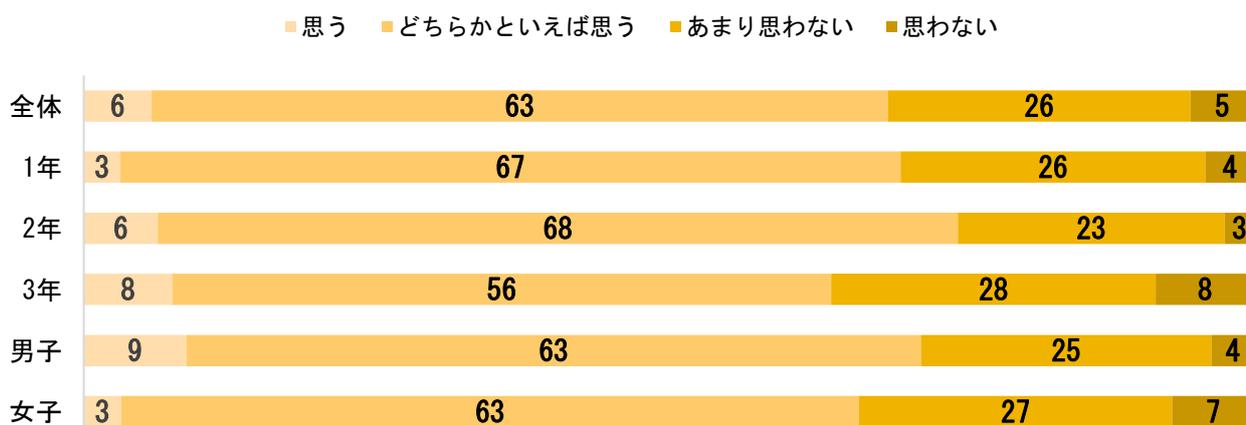


食意識の高まった項目【事業後：保護者の視点、学年別、人数(人)】

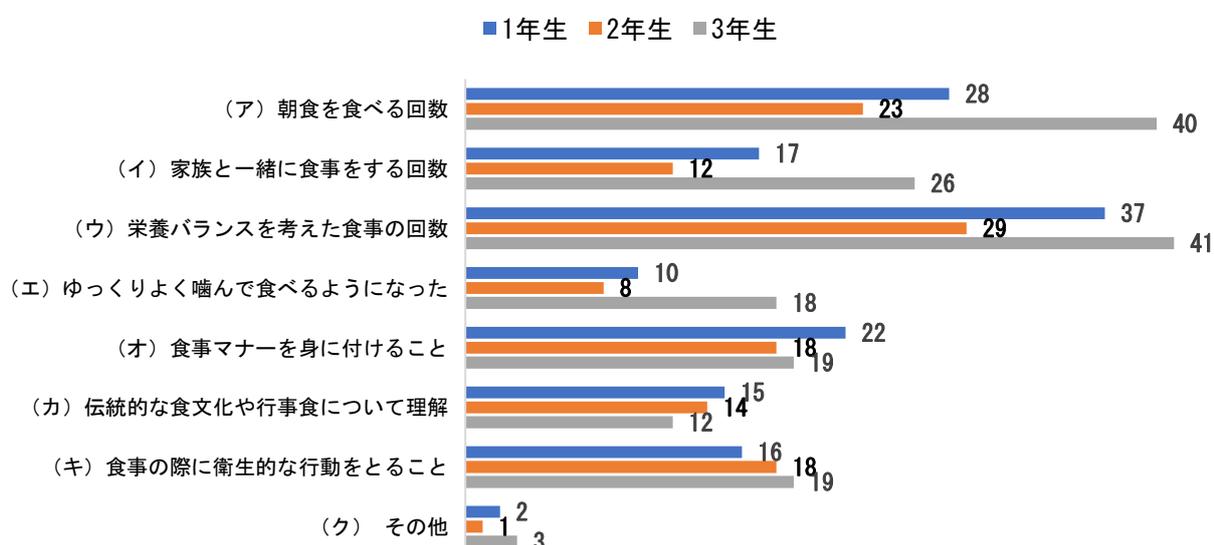


【食習慣の変容について：保護者アンケートから】

食育による生徒の食習慣の変容【事業後：保護者の視点（％）】



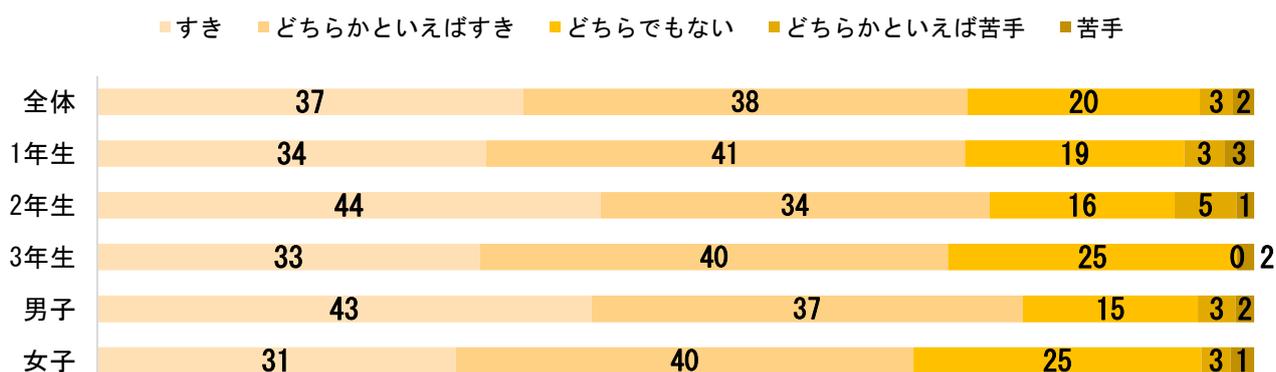
改善された食習慣【事業後：保護者の視点、学年別、人数(人)】



(2) 独自指標について

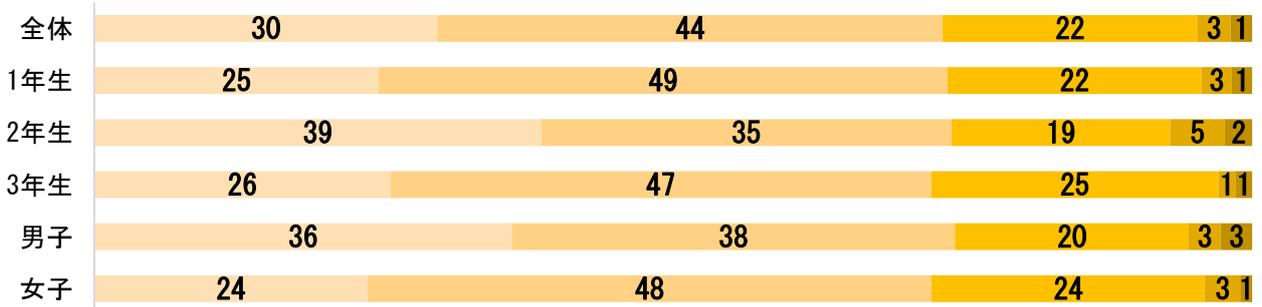
【「給食が好き」な生徒の割合：生徒アンケートから】

あなたは、給食がすきですか？【事業前（％）】



あなたは、給食がすきですか？【事業後（％）】

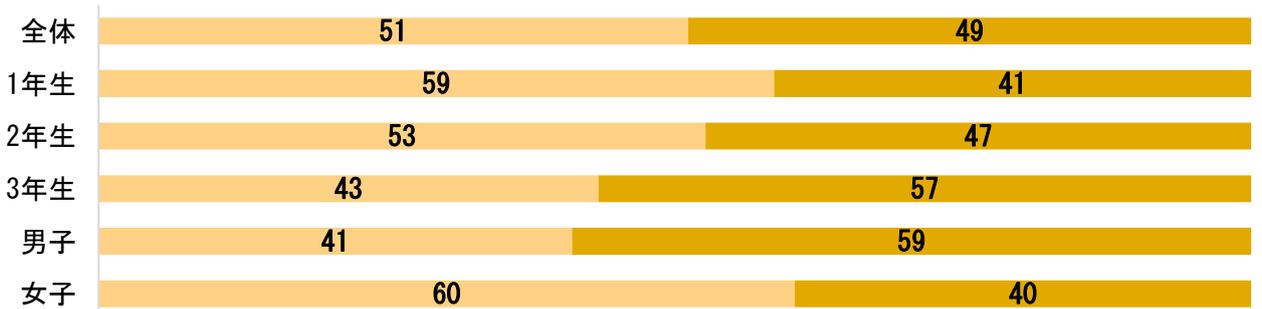
■すき ■どちらかといえばすき ■どちらでもない ■どちらかといえば苦手 ■苦手



【自分で料理をする機会・頻度について：生徒アンケートから】

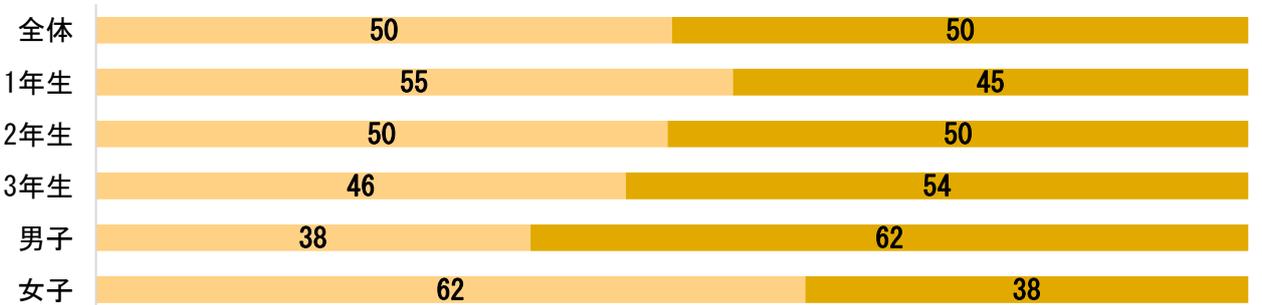
自分で料理する機会 【事業前（％）】

■ある ■ない



自分で料理する機会【事業後（％）】

■ある ■ない



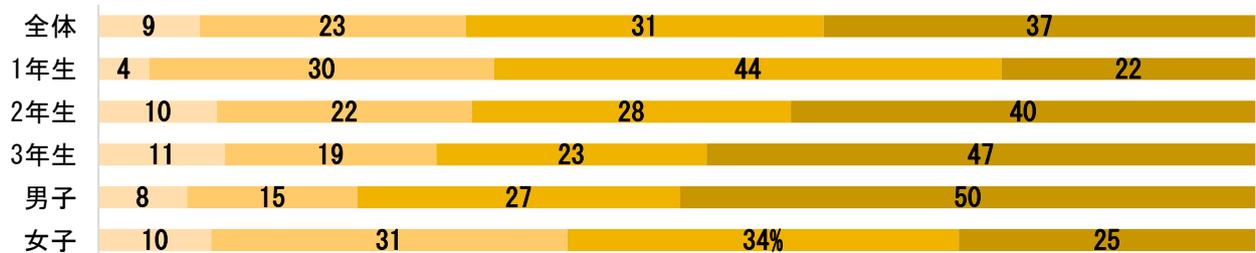
自分で料理する頻度【事業前（％）】

■月に5回以上 ■月に2～4回 ■月に1回 ■まったくない



自分で料理する頻度【事業後（％）】

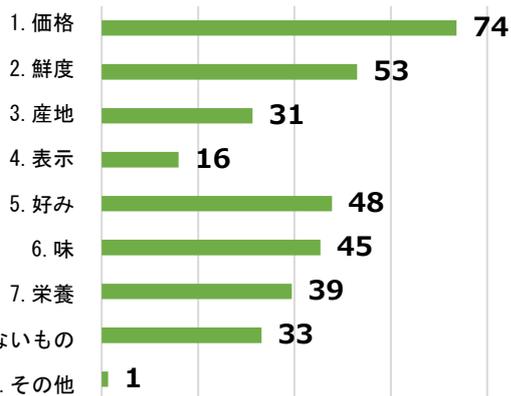
■月に5回以上 ■月に2～4回 ■月に1回 ■まったくない



【食品選択における着眼点：生徒アンケートから】

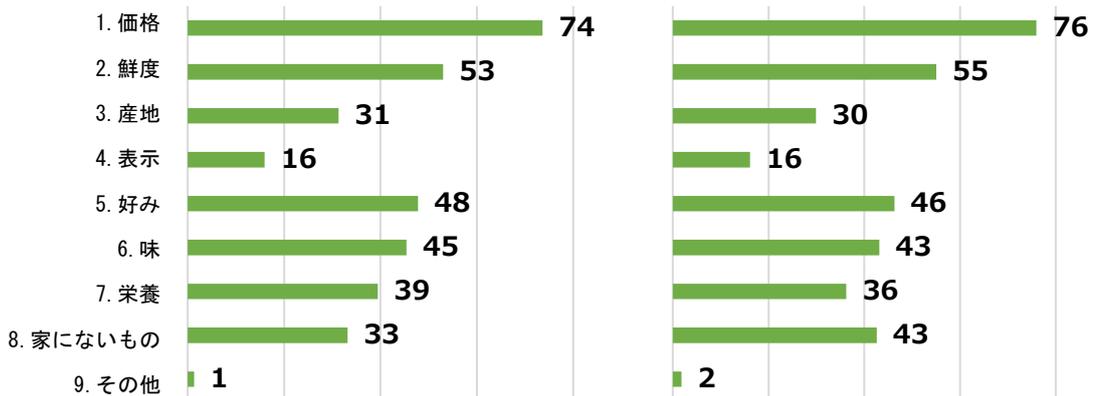
【事業前：全体、複数回答（％）】

0% 20% 40% 60% 80%



【事業後：全体、複数回答（％）】

0% 20% 40% 60% 80%

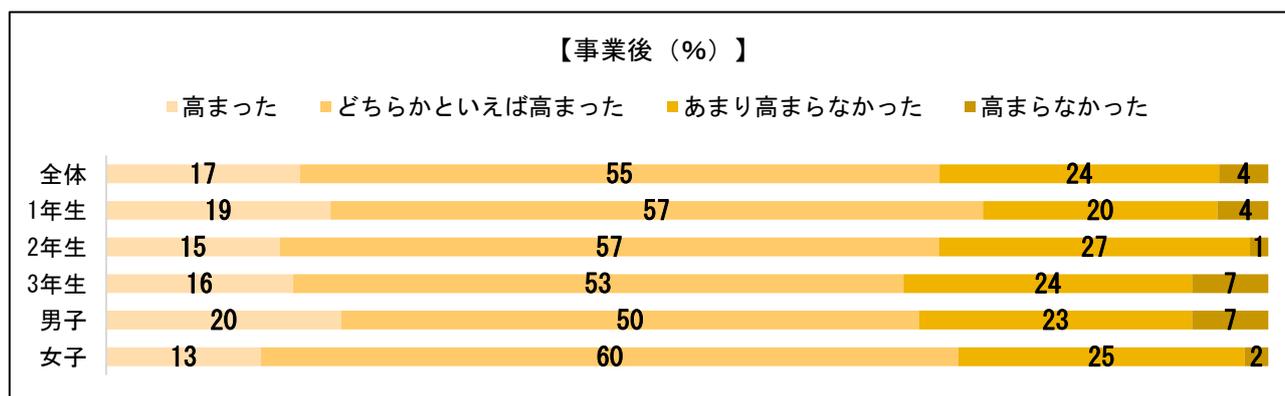


10. 選ぶこと（買うこと）はない

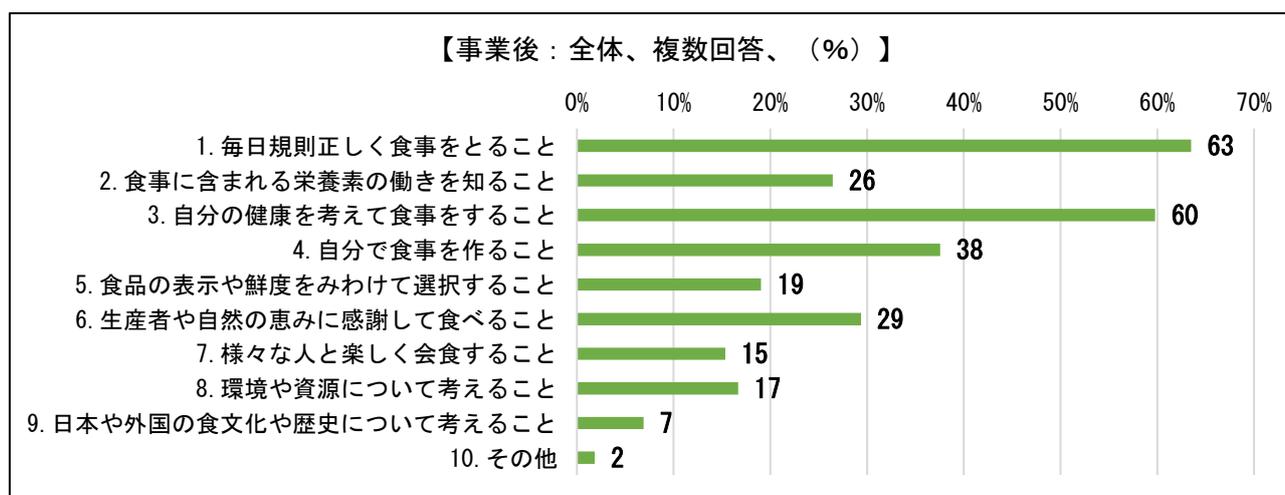
16

11

【食育の取組による食への関心・興味の高まり：生徒アンケートから】



【今後、食生活において身につける必要があること：生徒アンケートから】



8 成果と課題

(1) 成果

学校を中心とし、関係機関、団体等が連携した家庭を巻き込んだ「ちっこ食育プログラム」における4つの働きかけにより、生徒の「食の自立」を目指そうとする意識が高まった。

- 本事業の取組によって、食への関心・興味が「高まった」「どちらかといえば高まった」と答えた生徒は、どの学年においても約7割であった。
- 今後、食生活において身につける必要があることとして回答した上位3つは、「毎日規則正しく食事をとること」、「自分の健康を考えて食事をする事」、「自分で食事を作ること」であった。このことから、生徒の今後望ましい食生活を自分で創り出そうという意欲が伺える。特に、3年生においては、事業実施後「自分で料理を作ることがある。」が3ポイント、「自分で料理をする機会が月5回以上ある。」と答えた生徒は合計5ポイント高くなっている。これは、本事業を含めこれまでの食に関する指導が、生徒の「食の自立」を目指そうとする意識の高まりにつながったと考える。
- 保護者へのアンケートにおいては、どの学年も約7割の保護者が、生徒の食習慣の変容を捉えている。「朝食を食べる回数」や「栄養バランスを考えた食事の回数」が改善されたと答えていることから、朝食摂取率向上を目指した取組や生徒の食生活に関する知識・技能を高める取組は、生徒の「食の自立」を目指そうとする意識を高めるために有効であったと考える。

(2) 課題

生徒の「食の自立」を目指そうとする意識を実際の行動につなげるための取組を充実させていく必要がある。

- 事業前後の食行動を比較すると、4つの項目のうち3つの項目（朝食摂取頻度、共食の回数（朝食）、栄養バランスのとれた食事回数）については、事業後が若干低い結果となった。
- 自分で料理をする機会については、全体的には事業前後の変化が見られなかった。
- 生徒の「食の自立」を目指そうとする意識を実際の行動につなげるためには、生徒への働きかけに加え、家庭への働きかけを工夫・改善していくことが今後重要であるとする。生徒と保護者が協働で取り組むことができる活動（学校で、家庭で）や、生徒が保護者に働きかけることができる活動の設定が今後必要であるとする。

9 情報発信と普及の計画

- (1) 県や市ホームページ、広報誌等で取組状況や成果について発信する。
- (2) 各種研修会等で取組の内容や成果について報告する。
- (3) 事業の成果を冊子にまとめ、県内外の教育委員会や県内の学校に配布することで、取組や成果を周知する。